イヌワシ保護増殖事業の主な取組（東北地方環境事務所）

１．イヌワシ森林施業モデル事業（餌動物のモニタリング）【平成 27 年度～令和元年度】

【概要】

４箇所の皆伐地において、ノウサギの出現状況及びノウサギによる隠れ場の利用状況について調査を実施し、以下の結果が得られた。

・本事業で設置したノウサギの隠れ場はカメラによる出現数に対して利用数が低く、設置することによる誘因効果が弱いと考えられる。

・皆伐後下草刈りの実施等により採餌環境を改善することで、３年目以降にノウサギの利用が増大。

イヌワシ保全を進めるには森林施業の推進による採餌環境の改善が重要であるため、今後、そういった取組を実施。

取組①：イヌワシ保全に係る事例集を活用した普及啓発（２．参照）

取組②：イヌワシ生息環境改善検討業務（３．参照）

２．イヌワシ保全に係る事例集を活用した普及啓発【令和元年度～】

【作成の背景】

イヌワシの個体数を十分に維持・回復するためには、近年低い水準にある繁殖成功率の向上に繋がる取組が必要である。繁殖成功率が低い要因の一つとして、放棄された人工林（鬱閉した森林）の増加や、二次草原（半自然草原）の減少により、イヌワシの好適な狩場が減少したことが考えられている。

そこで、全国でみられる積極的な森林や草原の管理といった、自然資源を活用することで地域活性化を目指す取組の事例を集めた事例集を作成した。掲載した取組や概念が一層広がることを期待し、本事例集を広く配布中。

【配布状況】

・全国の都道府県及び市町村の希少種担当部局・森林部局・地域振興担当部局へ配布

・環境省の各地方環境事務所野生生物課へ配布

【今後の配布予定】

・林野庁の各森林管理局及び各森林管理署へ配布予定

・全国森林組合連合会への配布。その他民間の森林関連団体への普及啓発も検討

３．イヌワシ生息環境改善検討業務【令和２年度】

人工林における森林施業の推進と採餌環境の改善が急務であることから、土地所有者の理解・協力が得られるよう、イヌワシの生息状況や個体数減少要因、重要な改善策について整理した資料を作成。

資料作成にあたっては、平成 19 年度以降実施している東北地方イヌワシ繁殖状況調査データを活用。ペアごとのイヌワシの暫定行動圏（半径 6.4km）における植生を分析し、森林施業の推進が特に重要な地域の抽出等を行なった。

今後、東北森林管理局とも本資料を共有し、森林施業の推進による採餌環境の改善が図られるよう調整予定。

４．東北地方イヌワシ繁殖状況調査【平成 19 年度～】

東北地方において、イヌワシの毎年の繁殖状況・生息状況を把握するために各地域の観察者へアンケートを実施し情報収集。収集データは、データベース（GIS 含む）で管理し、イヌワシ保護増殖事業の推進に係る基礎資料としての活用を図っている。

【今後のデータの活用例】

・イヌワシ生息環境改善検討業務に活用（３．参照）

・普及啓発活動を行なう猛禽類保護センターで、本収集データを活用した展示物を作成。

【令和元年度調査結果概要】

報告（作成）：環境省鳥海南麓自然保護官事務所

情報提供協力者：秋田猛禽類調査グループ、青森イヌワシ調査会、伊藤智樹、今井正、
岩手県環境保健研究センター、大澤八州男、須田義晴、髙橋誠、
東北地域環境計画研究会、富樫弘、南三陸ワシタカ研究会（五十音順）

表１．イヌワシ定着箇所数

	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
定着箇所数	5	35	5	10	22	10	87

表２．イヌワシ定着状況

	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
ペア（2 個体）確認	4	20	2	2	17	8	53
1 個体のみ確認	0	2	1	1	3	0	7
個体未確認	1	13	0	4	0	1	19
未調査	0	0	2	3	2	1	8

表３．イヌワシの巣特定状況

	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
巣の位置を特定	3	35	5	6	18	9	76
不明	2	0	0	4	4	1	11

※特定している巣には古巣を含む

表４．イヌワシの巣状況

	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
岩棚	2	67	5	9	20	10	113
樹上	1	36	18	1	6	1	63
不明	3	0	0	2	6	5	16

表５．イヌワシの繁殖状況

		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
繁殖成功		1	2		1	2		6
繁殖失敗	育雛まで確認	1	7		1	1		10
	抱卵まで確認		4					4
	造巣まで確認		6			10	5	21
	求愛行動まで確認		1					1
	失敗段階不明	2		2		4	3	11
合計		4	20	2	2	17	8	53

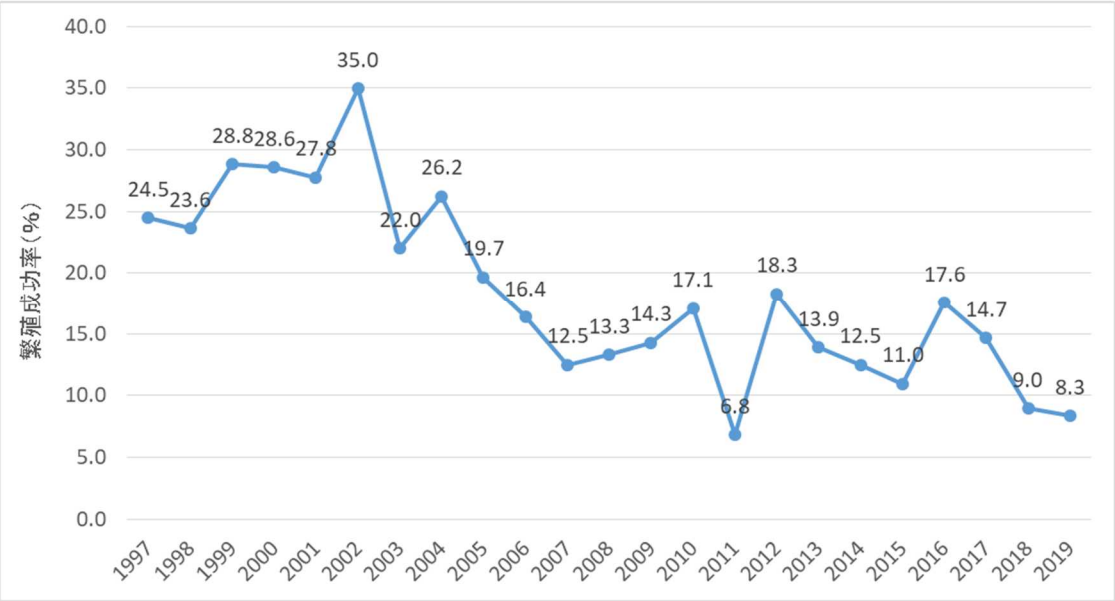

図１．東北地方における繁殖成功率推移（令和２年３月現在）